地域の夢 ―― 長岡地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための長岡地域の方針と活動

長岡地域は、こんなところ

■長岡市の成り立ち

長岡市はまちの中心部を信濃川が流れ、東西には東山連峰、西山丘陵地が連なる自然環境に恵まれた県内第二の都市。上越新幹線で東京から80分、関越自動車道で東京都内から3時間の距離、日本海側における北陸、東北の分岐点でもあり、交通の要所ともなっています。長岡のまちの原型は江戸時代初めの長岡城の築城と共に形成され、明治初めまで約250年間にわたって7万4千石の城下町として栄えてきました。市制が施行されたのは明治39年。以来、中越地区の商工業の中心として発展してきました。

長岡は北越戊辰戦争と昭和20年の長岡空襲によって壊滅的な被害を受けましたが、市民は不屈の努力で立ち上がりまちの復興を成し遂げました。復興後は周辺市町村との合併が進み、現在の市域となったのは昭和35年です。平成5年に地方拠点都市地域の指定を受けてからは周辺13市町村の中心都市として市域を超えた広域行政を展開しています。

■ものづくり生産基地

長岡市は明治中期の東山油田の開発を契機とする石油掘削機械の製造・修理の需要に端を発し、機械加工、鋳造業、メッキ、表面処理、鍛造業などの基盤的技術をもった企業や大手メーカーが集積しています。

近年では従来の基盤的技術産業に加え、戦後の技術革新とテクノポリス指定を背景に電気・電子機械や液晶・半導体など高度な技術を有する多様な分野の企業がバランスよく集積。研究開発機関や技術・デザインに関する特色ある大学、産業支援機関などが多数立地しており、世界的な技術を有する企業も多く、産学官の連携体制も充実しています。首都圏などへのアクセスも良いことから、独創企業を生み出す土壌が整い、ものづくりのまちとしてさらなる発展が望まれます。

長岡地域の方針と活動（右頁参照）

長岡地域において「新市地域らしさ価値」を高めていくための方向性と、活用したい地域資源（地域の強み）から検討した、将来実現すべき地域の姿（整備・活動方針）と実現のための活動・展開を提示します。

1 整備・活動方針と活動展開

一新市全体のありたい姿一 WANT

長岡地域において

独創企業が生まれ育つ都市
～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

・人・モノ・情報が集積するように都市の空間、機能、仕組みを進化させていく
・発想をものづくりに転換する技術、起業・創業を生み出すための市場形成など、独創企業の生育機能を強化する

一活用したい地域資源一 CAN

資源の強み・内容

ものづくりの優位性

●機械・金属・電気・鉄鋼・精密機器など高度な技術を有する多様な分野の企業がバランス良く集積、研究支援機関や技術・デザインに関する特色ある大学、専門的な教育機関などが多数立地、交通の要衝・拠点、情報通信基盤
・ものづくりに関する技術がワンセットで供給できる集積地
・世界的な技術を有する企業も多く、国内外への情報発信力を持つ
・実践力のある専門人材の育成が可能（大学発ベンチャーなど）
・産学官の連携体制が充実
・首都圏等へのアクセスも含め中心部ならではのビジネス環境を提供できる

産業・生活スタイルの多様性

●流通・販売・サービスなど多分野産業の集積、都市的生活スタイル、自然や伝統とふれあえる
・独創的な発想の源となる異文化・異業種の交流・集積地である
・人口集積を背景に、ものづくり以外にも新たな起業を創造するための市場が形成されている

一実現すべき長岡の姿一 WILL

■長岡地域整備・活動方針

世界のモデルとなる独創企業生育拠点への挑戦

・ものづくりの確かな技術と人、モノ、情報の集積を強化し、世界に広がる夢を現実に変える都市（空間、機能、仕組み）の創造

実現していくための活動・展開

見極める

●ものづくりや起業者を支える産学官の連携を含む新たな地域社会ネットワークづくりやビジネス環境の整備
・先行的な事業ニーズ・シーズの把握に向けての情報収集・情報交換活動の実践
・地域内と地域外・技と技、技と販売等の多様な交流機会をコーディネイトする仕組みづくり
・知的インフラ整備等のビジネス環境づくり
・創造的なインキュベーション及び革新的企業経営が促進される弾力的な地域環境づくり

発信する

●地元企業（製造業等）の技術力を国内外へＰＲする見本市等の多角的情報発信を強化
●ドイツのマイスター制度＊1を発展させた職人・技術者集団による夢のあるものづくりの実現と発信
●21世紀COE＊2長岡技科大プロジェクトと連携するなどゼロエミッション（廃棄物ゼロ）、新エネルギー活用等自然と共生する環境循環型企業の支援と発信

育てる

●オンリーワン・ニッチトップ＊3企業を促進する経営、技術、法務等、産業支援機能を強化・高度化
●産学協働で取り組む異業種交流の次世代に向けた促進プログラムの開発
●世界的視野にたった理数系、技術系に照準を合わせた実践的教育の取り組み
●職人や技術者、企業家等、産業界の人材が学校教育に参加する仕組みづくり

＊1 マイスター制度　：職人の技能・理論を実践と教育で培う制度
＊2 21世紀COE　：世界最高水準の大学づくりに向けた、研究教育拠点の形成を支援する事業（文部科学省）
＊3 オンリーワン企業：他に真似のできない独自の優れた技術を持つ企業
　ニッチトップ企業：製造業を中心とした特定の製品分野において、全国で高いシェアを獲得している企業

2 整備・活動方針と活動展開

ー新市全体のありたい姿ー WANT

長岡地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

・地域の食の最前線として安全性・品質・量に関わる生産体制に裏付けられた食への誇りを持つ農産加工品の開発
・地域農産物を活用した食の安定供給による市場開拓と消費の拡大
・全国への情報発信など、食に関するあらゆる分野の展開を可能とする地域として、新市の食全般を支える

ー活用したい地域資源ー CAN

資源の強み・内容

生産と加工技術の発信

● 農業総合研究所・農業技術学院、内水面水産試験場
・ 全国レベルの研究所と指導者養成機関が立地
●郷土料理、和菓子、酒・醤油等
・ 伝統的な食の技術が継承
● ながおか米
・ コシヒカリ発祥の地としての誇り、信頼された農産物の安定した供給量

市場開拓力、販売力

●多様な飲食施設と活気ある市場の集積
・飲食街やロードサイド型レストラン、さらにコンベンションの充実により、食の施設とサービスが多様
●豊富な消費人口と多様な食の生活スタイル
・豊富な消費者により、新たな食のビジネスを生み出す多様なニーズが潜在
●長岡野菜
・伝統野菜の全国ブランド化への取り組み

県内外の来訪者の拠点

●地域の玄関口として地域外からの来訪者の滞在の中心地
・来訪者が地域の食を楽しむ機会を数多く提供

ー実現すべき長岡の姿ー WILL

■長岡地域整備・活動方針

日本の食文化の誇りを育て、伝統を活かした「新ながおかブランド」の食の拠点として全国へ展開

・たゆまぬ研究と歴史に支えられた、生産から消費、市場拡大まで、日本を元気にする、あらゆる食の先進モデル地域としての展開を強化

実現していくための活動・展開

見極める

●研究に裏付けされた技術力の普及と生産履歴の明確化による消費者への信頼性の向上
●長岡発信の超高圧処理技術等の先端工業技術の活用などによる新しい安全安心の食品加工・開発の強化
●長岡米や長岡野菜を使った長岡でしか味わえない新しい名物郷土料理・特産品の開発と販売力の強化

発信する

●健康食品産業や外食チェーン等とタイアップしたブランド品の普及、促進
●美しい農村地域と一体となった酒や農産物のブランド開発と発信

育てる

●中山間地域をはじめ、地域の環境、活力を守り支えるための「農業地域再生」を目指す取り組みの実現
●研究機関・大学と連携したバイオテクノロジー等、新技術の活用による高付加価値の農産加工業の育成
●環境配慮・地域循環型の生産・消費・生活の推進
●農業体験等により農業の役割を理解し、環境の保全を促す心を育成
●将来の農業を担う人材育成と人材確保

3 整備・活動方針と活動展開

ー新市全体のありたい姿ー WANT

長岡地域において

世代がつながる安住都市
～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

・市民力によるまちづくりを促進・確立することで、市民自らまちをつくりあげる力があることを地域内外へ示す
・市民自らが安住都市づくりを推進していく力を育成する
・都市の斬新な空間・機能の構築により、時代の変化に対応した新たな発想・活力を創造する

ー活用したい地域資源ー CAN

資源の強み・内容

市民力
● 米百俵の精神、互尊文庫、悠久山、多様なNPOやボランティア活動など
・市民の自立と進取の精神が、まちづくりで実践されている

基本的な都市機能の充実
● 医療・福祉、教育施設、商業機能、子育て機能、男女共同参画
・基本的な都市機能の充実により、快適な日常生活と多様な分野の活動が行える基盤がある

ー実現すべき長岡の姿ー WILL

■長岡地域整備・活動方針

「市民の想いが、まちをつくる」
市民とまちが一体化する
安住都市への歩み

・歴史と伝統に育まれた「市民力」を活かした、あらゆる世代の想いや願いがかなう、新しい都市・生活環境の創造

実現していくための活動・展開

見極める
●市民の声や想いを集める仕組みや地域社会等の情報収集・情報交換の仕組みを確立
●市民の提案や社会ニーズを施策へ反映、展開が可能な仕組みづくりを推進
●都市の魅力向上・交流機会拡大による若者の活力が集まるまちづくりの実践

発信する
●医療・福祉・教育など多様な分野ですべての世代が活発に交流できるコミュニティの形成
●NPO・ボランティアを活用した福祉の拡充による「寝たきりゼロ」への挑戦
●子どもたちの豊かな才能や発想を社会に反映させる仕組みづくり
●子育て・教育環境日本一のまちづくり

育てる
●自然体験や人との交流を通して豊かな心と強い精神を持つ子どもが育つ環境づくりを推進
●スクールカウンセラー等の充実などによる心の安定や感性の豊かな子どもの能力を育む環境づくりを推進
●子どもたちの才能を早期に発見し、地域一体となって伸ばす地域独自のカリキュラムづくりを充実
●専門的な職業経験を生かせるボランティア・NPO活動やコミュニティビジネスの場の創出

4 整備・活動方針と活動展開

ー新市全体のありたい姿ー WANT

長岡地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- 国内外と地域をつなぐ交流の駅であり、各地域の交流目的を支援する機能だけでなく、もてなしによる心の交流を実践し、地域イメージの向上に寄与する
- 交流の結果として、国際協力・国際貢献へと発展し、世界が共感する活動を発信する地となる

ー活用したい地域資源ー CAN

資源の強み・内容

交通の要衝・拠点

● 上越新幹線、関越・北陸自動車道、国道８号長岡バイパス、国道 17 号長岡東バイパス
・高速交通体系の拠点として、県内外への窓口となっている

多様な国際交流

● 姉妹都市（米：フォートワース市）、友好都市（独：バンベルク市、トリアー市）
・青少年の相互交流等を中心として幅広く多様な国際交流の歴史と実績がある
● 世界から長岡に学ぶ留学生は約 280 名で、講師として小中学校への派遣も実施

交流資源と受け入れ機能

● 多様な観光資源、四季折々のまつり、コンベンション、宿泊施設
・観光、ビジネスの両面で、年間を通じた来訪があり、それを受け入れる機能も充実している

ー実現すべき長岡の姿ー WILL

■長岡地域整備・活動方針

地域と世界を和らぎで結び、人々の心に残る世界都市への挑戦

・世界をもてなす和らぎのこころを育み、新たな交流の価値を発信する拠点となる

実現していくための活動・展開

見極める

●新ながおかの交流拠点としての先進的都市機能の充実や「和らぎ交流」を支えるもてなしの基盤・体制の充実
●国際規模の見本市の開催等が可能なコンベンション機能が充実したまちづくり
●既存の観光分野にとらわれない、ビジネス面等での新たな交流メニューの開発、もてなし交流機会づくり（長岡人の営み（産業・生活）を交流資源とする取り組み、田植え、稲刈り、食・・・）
●地域の資源や歴史を再発見する「地元学」による新たな交流価値の発見

発信する

●国際交流・国際貢献を通じて世界平和に役立つ交流の推進とメッセージの発信
●米百俵、花火、・・・様々な歴史、文化資源にみる“長岡の心”の魅力を世界に発信

育てる

●長岡の資源を活かした新たな観光ブランドの創出
●再び訪れたくなるまちとしての魅力を高めるため地域一体となった「もてなし」向上のためのプログラムの開発と実施
●若者をひきつける魅力的な都市文化の再構築

もっと詳しく地域の力――長岡地域

長岡市では、幕末に長岡藩軍事総督として気概を持って正義を貫こうとした河井継之助、明治初期に人材育成を復興の精神として掲げ、米百俵を国漢学校の設立資金の一部に充てた小林虎三郎など、反骨精神・自立心で時代を開いてきた人物が多数生まれてきました。長岡の資源は市民力。戊辰戦争や長岡空襲で焼け野原になったまちを復興したのはそんな気概と精神に富む長岡の人々です。今、その市民力は多様なＮＰＯやボランティア活動に活かされています。

■情報先進都市「ｅ-ネットシティながおか」

長岡市では、平成14年度から「ｅ-ネットシティながおか推進事業」として、公共施設間やモデル地区の一般家庭などに光ファイバーによる超高速ネットワークの整備を進めるとともに、本格的なブロードバンド時代に向けたコンテンツ（情報の内容）を積極的に導入しています。

現在、提供しているコンテンツとしては、市民大学や健康講座などが家庭などからいつでも学習できる「ビデオ・ライブラリー」、図書館が所蔵している貴重資料を公開する「ネット・ミュージアム」、災害時に安否情報などを交換する「防災情報掲示板」、観光や歴史を動画やパノラマなどで紹介する「まちめぐりミュージアム」等があります。

このほか、テレビ会議システムを活用した「行政テレビ相談」や「庁舎間会議」を導入したことで、離れた施設間でも出向くことなく市民からの相談や職員の打ち合わせが可能になりました。

今後も、ブロードバンドに対応したコンテンツの導入を進め、地方都市の魅力を高めるとともに行政サービスの向上と業務の効率化を進め、情報技術を活用した豊かな市民生活の実現と地域の活性化を図ります。

■花いっぱい運動

「咲かそう花を、育てよう緑を」をキャッチフレーズに、花と緑で住み良いまちづくりと心豊かな人材を育てる長岡市の花いっぱい運動の輪は、年々広がっています。
現在、100団体もの地域ボランティアが市内の公園や学校・街路の花壇等に約7万本の花を植え管理しています。また、長岡市花いっぱいフェアの開催や長岡駅前での市民プランターづくりなども行っています。

■異業種参加で産業を活性化

長岡市内の異業種20社が参加している「長岡産業デザイン研究会」では多様化する生活者の価値観に対応するため、企業経営へのデザインの活かし方や新たなデザイン商品の開発、研究などに取り組んでいます。

■長岡野菜のブランド化

長岡巾着ナス、体菜、肴豆（枝豆）、おもいのほか（食用菊）、土垂れ（里芋）などの伝統野菜。その長岡の伝統野菜を楽しむ風土を作ろうと、流通、技術、種苗、生産等の各専門家や消費者が参加して長岡野菜ブランド協会をたちあげました。長岡野菜に認定された品目に共通シールを貼るほか、料理教室や交流会を開催、伝統野菜の食べ方も伝授しています。

■一店逸品運動

中心商店街では、魅力ある店づくりをめざし一店逸品運動を展開中。参加店を紹介したカタログの作成や「商店街大好き！」な女性消費者の長岡逸品ふぁん倶楽部とお買い物ガイドツアーを企画して、まちなかの楽しさを広くPRしています。

■リサイクルを推進し循環型社会を構築

ＮＰＯ法人「地域循環ネットワーク」では、学校や保育園などから出される調理残さをボランティアで収集。市内の牧場と契約し、家畜の飼料として再利用する活動を行っています。